

## 会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営等に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	第 3 回高松市創造都市推進懇談会（U 4 0 / 第 6 期）	
開催日時	令和 5 年 6 月 2 7 日(火) 午後 6 時 3 0 分～午後 8 時 2 5 分	
開催場所	高松市役所 1 1 階 1 1 0 会議室	
議 題	1 意見交換 2 その他	
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開	
上記理由		
出席委員	多田会長、湯川副会長、林委員、二川委員、土井委員、三木委員、棟近委員、宮武委員、松井委員、西森委員、水原委員	
事務局	産業振興課 伊藤主事	
市参加者	産業振興課	岡本係長、齊藤主事、藤原主事
	市場管理課	坂口主任技師、亀井主任主事、岩井主任技師、綾田主事
	文化財課 <small>（菊池寛記念館）</small>	森田館長、宇都宮係長
	スポーツ振興課	東係長、石川主事
傍聴者	0 人	
担当課及び 連絡先	産業振興課 創造産業係 8 3 9 - 2 4 1 1	

### 審議経過及び審議結果

- 1 開会  
（事務局から開会挨拶）
  
- 2 意見交換  
【会長】  
前回会議で、各課から事業説明をしてもらい、各委員が担当する事業について、決定した。今回からは、いよいよ本格的に、意見交換に入りたい。  
途中で、各グループで、どのような話をしたのか、全体で共有する時間を持ちたいと思う。

**(各グループで意見交換 前半)**

**【会長】**

グループごとに、どのような話をしているのか、発表してほしい。

**【市場管理課グループ①】**

前回会議以降、市場管理課に、市場内で使えるスペースを調べてもらった。

イベント等で使用したことがある場所や、一部の時間なら利用可能な場所を教えてください、そのような場所を利用して、賑やかさができるのではないかと話になっている。

市場の弱いところは、奥まったところにあるので、市場を目的地として設定してもらわないと、来てもらえないところである。

また、東南アジアのような雑多感は作れるのではないかと話が出ている。「よるまち」というイベントを行っているが、周知が足りていないのが課題であったことや、地元の日新コミュニティ協議会との連携はどうか等の話をしているところである。

**【産業振興課グループ①】**

伝統工芸や特産品を皆様にどのように知ってもらうのか、話し合いを進めている。まず、インバウンドに注目し、地元の産業が潤うような形で、海外に商品を出していきたいが、どのようにしたら良いかとの話をしている。海外のサイトにどんどん出品してはどうかとの御意見をいただいているが、行政側としては、高松に来て、高松について知ってほしいとの思いもある。海外の人に知ってもらう方法について、話を進めていきたい。

**【文化財課グループ①】**

まず、どのような取組をしているのか情報共有から始めている。講演会や香川菊池寛賞等、どれも基本的に成功していて、200～300人来場するような催しもある。しかし、会場が菊池寛記念館ではないため、イベントには来場しても、菊池寛記念館には訪れない現状がある。

来館される方の年齢層が高めなので、若年層に対してどのようにアプローチできるのか、この後話していきたい。

#### 【スポーツ振興課グループ①】

高松市のホームタウンデーをどのように盛り上げていくかについて、話し合いを進めている。野球、バスケ、サッカー、アイスホッケーとあるが、共通して集客に課題がある。特に、コロナ禍に入り、コロナ前の半分程の集客になっている。限られた予算を、コロナ禍になっても来てくれている50パーセントのコアなファン向けに使うのか、若しくは、コロナ前の水準に戻すために、もともとファンだったけど、今来られない方に使うのか、若しくは、今まで行ったことない方に使うのか、どこに向けてターゲットをどこに絞って施策を打つか話し合っている所である。スポーツと一括りにしても、野球、バスケ、サッカー、アイスホッケーと幅広く、話を聞いていると、野球は男性の中年層が多く、バスケットは比較的女性の方が多いという特徴がある。スポーツの活性というよりは、特定のスポーツ、サッカーならサッカー、バスケットならバスケットという形で、もう少しターゲットを絞って効果的なお金の使い方ができれば良いという話をしている状況である。

#### （各グループで意見交換 後半）

##### 【会長】

本日のまとめとして、再度、情報共有を行いたい。

##### 【市場管理課グループ②】

商店街と商店街の間に、共用スペースがあるので、その空間を使ってイベントをすることになった。昼の賑わいは完成に近づいているので、夜のニーズを掴むために、賑わいを見せられるイベントをやりたい。提灯を使用し、台湾マーケットのような雰囲気、居心地が良い空間を作る。

次回ブラッシュアップしてアウトプットしたい。

##### 【産業振興課グループ②】

後半の話し合いでは、産業振興課として、出来ること、出来ないことを整理していった。

まず、出来ることは、今ある特産品の事業者の中で、あまり風向きが良くない状況の中でも、意欲的に活動されている方をピックアップしたり、事業者同士をつなげたりすることが挙げられる。

出来ないこととしては、一つの企業に注力して、その企業だけを支援すること

は、行政としては難しい。しかし、輝いている事業者さんや作家さんを募って、今後、何かつなげる・かけ合わせる事業を進められれば良いと思う。

出来ていないこととしては、SNSの活用である。色々連携しながら活用していきたいと思う。今ある特産品や伝統的ものづくりについては、連携や情報があるが、これから表に出てきそうな特産品や魅力あるものは把握しにくいいため、今後、商工会議所等の民間の方々との連携し、情報を共有していきたい。

また、一過性なエンタメのイベントよりは、持続性がある事業をやっていきたい。今後持続できるようなイベントやプラットフォームのような場を提供する方法について、具体的に話をしていきたい。

最後に、事業者さんの後継者が不足しているので、振興する上で県外の方や他の仕事をしていた方が業務を継ぎたいと思ってくれるようなPRの仕方を次回も話していきたい。

#### 【文化財課グループ②】

小学生向けのアプローチと若年層向けのアプローチについて意見が出ている。

小学生向けのアプローチとしては、サンクリスタル学習という小学生が年間2,000人程来館する取組があるので、その中の菊池寛の授業、講義をさらに体験が深まるような、また来てみようといった思いが深まるような工夫が必要だという話になった。例えば、文豪が作った作文の一文を最後だけ虫食いにして、「皆だったら何を入れますか」とか考えてもらえるような体験型の要素をもう少し増やしてみてもどうかという意見が出た。

若年層向けのアプローチについては、香川大学と、何かしらのコラボレーションができないか、そういった中で菊池寛記念館に訪れる若年層の方々を増やすことができないかという意見が出た。

弱点としては、中心地から離れており、そこが課題であるとの意見が出た。加えて、物販の案として、菊池寛をキャラクター化したLINEスタンプの作成や、菊池寛記念館に来ないとなかなか手に入れることができない非売品があると良いという意見が出ている。どこまで、現実的に対応可能か分からないが、今後、検討していきたい。

#### 【スポーツ振興課②】

チームごとでそれぞれ集客層が違うということで、具体的に、1つのチームに絞ってイベントを考えていきたい。

バスケットチームのファイブアローズで考えて見ると、比較的、男性と女性の比率

が同じくらいである。女性の参加が少し多く、また、30～40代あたりの客層が多いので、その層に向けての事業を考えていきたい。

プロ野球の球団の中では、選手やチームがお客さんとの距離が近くなればなるほど、継続的に試合の観戦に来てもらえるという事例を紹介してもらった。

選手と観客で何か一緒に行うような催しや、もっと知ってもらうような取組ができれば良いのではという話になっている。

今後、チームの関係者も含めて話をしていきたい。

### 3 閉会

(事務局から事務連絡をして閉会)